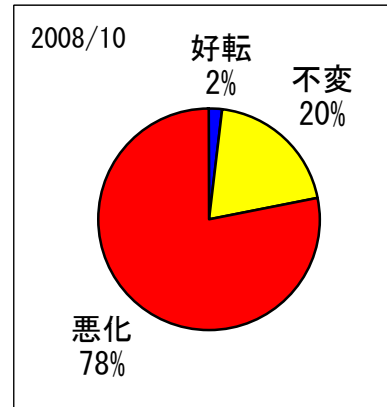
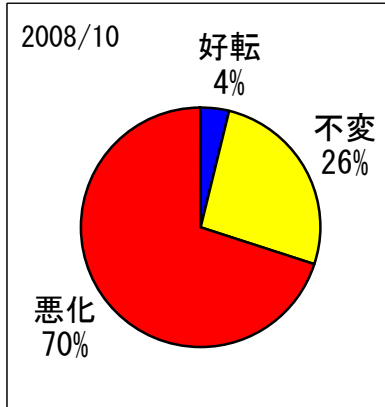
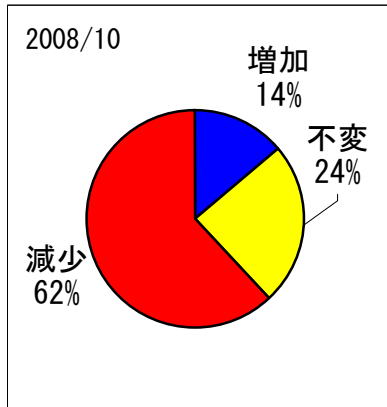
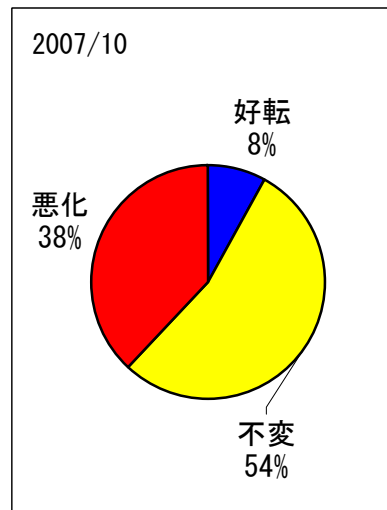
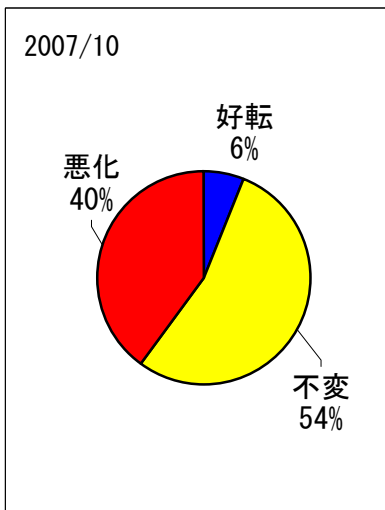
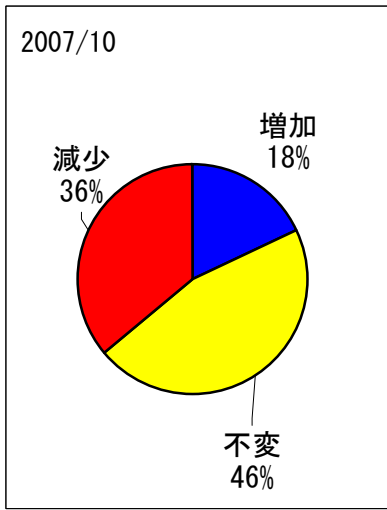


# データから見た業界の動き (平成20年10月分)

売上高 (前年同月比)

収益状況 (前年同月比)

景況感 (前年同月比)



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

区 分	製造業			非製造業			合 計		
	07/10	08/9	08/10	07/10	08/9	08/10	2007/10	2008/9	2008/10
対前年,前月,当月									
売上高	-20	-40	-55	-17	-53	-43	-18	-48	-48
収益状況	-45	-80	-65	-27	-70	-67	-34	-74	-66
景況感	-30	-75	-80	-30	-73	-73	-30	-74	-76

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

## ■ 概 況

本県の10月の景況は、全業種のDI値で、売上高は-48（前年同月比-30）、収益状況は-66（前年同月比-32）、景況感は-76（前年同月比-46）とDI値は大幅に悪化、景況感については、過去最低となった。

業種別では、製造業の売上高のDI値は-55（前年同月比-35）、収益状況は-65（前年同月比-20）、景況感は-80（前年同月比-50）であった。

非製造業のDI値においては、売上高は-43（前年同月比-26）、収益状況は-67（前年同月比-40）、景況感は-73（前年同月比-40）となった。

製造業、非製造業ともに対前年同月比のDI値では、大幅にポイントを下げ、特に全体で過去最低を記録した景況感DI値を業種別で見ると、製造業で-50ポイント、非製造業でも-43ポイントと全く先行きの見えない中小企業の厳しい経営環境がうかがえる。

原油価格が下落をみせる一方で、世界規模での経済不況が続き、円高、株安と我が国の経済に及ぼす影響が様々な要因となって、さらに中小企業の経営環境を悪化させている。

## ■ トピックス

今回は10月31日から緊急保証制度（対象545業種※11月14日から618業種）が開始されたことを受け、それぞれの業界における利用ニーズ並びにこの制度に関する意見について聞いた。

現状の景況では、借入しても返済に不安があり、経費圧縮等でじっと我慢の状態。（食品製造）、設備投資が一段落しており、新たな借入ニーズはない。（ワイン酒造）、資金は不足しているが、借り入れはマイナスにしかならないため、状況は厳しい。（アパレル）、資金繰りは悪化しており、利用ニーズもあると思うが、長期の据え置きを望む。（機械金属製造）、現在の借入金返済で精一杯の状況で新規融資を受ける気にはならない。（貴金属製造）、主な対応としてはこれまでとさほど変わらない。余りメリットが感じられないのでニーズは低い。（卸売業）現在当組合が置かれている状況は、事業の存廃をどうするか。しかし、規制緩和策で中小小売業者を廃業へと追い込んでしまった現在上記施策は何の意味も持たない。（水産物）公共工事を行っている事業者は「下請セーフティネット融資」を利用しているので、この制度の利用は少ないと思われるが、それ以外の事業者や下請業者の利用ニーズはあると思われる。（建設業）、資金を借りても返す目処が立たない。（住宅建築）金融機関は利用してくれというが、実際はハードルが高い。それよりも保証協会の利率を下げてほしい。条件が合えば利用したい。（運輸業）。制度に対する期待もある一方で、利用したいが、返済する目処が立たず、借入をすることが難しいとする中小企業の厳しい

## ■ 業界の声

### 【製造業】

- 食料品（水産物加工）／消費動向不安定で特に高価な物の荷動きが悪い。
- 食料品（洋菓子製造）／一流ブランドのOEMは好調で自社ブランド製品は低調。ブランド力の差が出ている。
- 食料品（製麺）／11月より小麦粉の仕入れ値が上がる。値上げの予定がないため厳しい。
- 繊維・同製品（織物）／円高の影響により、特に欧州向け、韓国向け商品の注文が少なくなってきた。
- 繊維・同製品（アパレル）／小売の状況がよくなく、回復の気配はない。
- 繊維・同製品（ニット）／店頭での販売が落ち込んでいるため、生産量はますます減少するものと思われる。また欧米の非常に安価なブランドがショッピングエリアに次々に出店し始めていることから、各小売店の安売り攻勢が一段と激化する模様。製造業者はこの影響をかなり受けると心配。
- 木材・木製品製造／木材の原材料の高騰で、製品の価格が15%程度上昇している。プレカットの仕事量はほぼ横ばいだが、製品の動きは良くない。
- 紙・紙加工品／10月は季節的要因で出荷額は前月より相当増加したが、対前年では会社によっては減少もあり、平均では横ばいか。
- 窯業・土石業（砂利）／10月に入り、各社とも出荷量がやや上昇傾向にあるが、前年同期と比較すると約10%の落ち込み。中部横断自動車道建設工事・リニア実験線延長工事とも骨材を使用するには至っておらず、発注自体地域的な片寄りがあり、早期の着工個所増加を望む。
- 窯業・土石業（生コン）／4月以降の価格対策により価格面では上昇しているが、出荷量の減少は大きく、加えて原材料費が大幅に上がり、経営を圧迫している。入札物件が少しずつ動き始め、今後の動きに期待。

### ■非製造業

- 卸売（事務機文具）／廃業する同業者や卸業の倒産など当業界を取り巻く環境は悪化の一途である。
- 小売（SC）／衣料関連はプロパーでの販売期間が、セール開始時期が年々早くなっていることにより、短くなっている。各テナントでの販売戦略にも厳しさを感じる。
- 小売（電機製品）／円高の影響で国内市場のメーカー間の競争が更に激化。又取引額による地域店戦略に拍車がかかり、小規模、高齢者の経営者の中に系列からはずされる地域店が増加している。
- 小売（石油）／軽自動車等小型車の普及及びハイブリッド車等の低燃費車の普及により、ガソリンの需要が減退。また、原油安・円高により石油製品供給コストが続落することが見込まれる。10月から公正で透明な市場価格連動の毎週仕切改定方式が導入された。
- 商店街／飲食店は売り上げ増加傾向あり。個店と商店街全体のセールを実施により、店頭売り上げ上昇。
- 宿泊業／紅葉のシーズンが年々短くなっている（遅く紅葉し(10月末)早く散る(11月中旬)）10月といえども悪い状況。冬以降の予約受注が減少気味。
- 美容業／仕入れ価格の上昇を価格転嫁しきれず、売り上げが2割ぐらい減少。
- 廃棄物処理／資源関係業は世界恐慌の波に呑み込まれ、販売枠が激減し、価格の設定が出来ない状態。また、中国のオリンピック後の景気低迷も重なり、資源の輸出がゼロの状態。企業の排出抑制の進行、排出企業の縮小化および転出と厳しい状況。土木建設関連業者の参入が多い。
- 建設業（総合）／建設工事を対象にこれまでの出来高払いの融資制度から、出来高以上の額の融資制度が発足する。
- 建設業（型枠）／ゼネコンの倒産も多く、仕事をしていても代金を回収できない事例も多くなってきた。仕事が少なく休業している者も多い。
- 建設業（鉄構）／鋼材価格（H型鋼）の下落傾向を先取りしてゼネコンからの値下げの要求が出ているが、鋼材の実勢価格は下がっておらず、赤字受注せざるを得ない物件がでてくる。工事の先取り、縮小等により年末から春先にかけての仕事量が減少しており、来年度の市況の一層の悪化が危惧される。
- 運輸（バス）／本来秋の観光シーズンで繁忙期のはずが今年は仕事が少ない。12月からのオフシーズンに少ない仕事利益を減らして価格競争となるのか？
- 運輸（トラック）／メーカー企業、製造業は輸出量が減少しているので国内生産量減産の影響が出てきている。年末年始、年度末は非常に低調な荷動きになると予測。荷主に物流改革を提案し、収入源とすべく対応を凶っている。